開会挨拶

皆様、こんにちは。日本海事センター会長の宿利正史です。本日の JMC 海事振興セミナーにも、大変多くの皆様にご参加いただいており、誠にありがとうございます。

さて、一昨年の 3 月から新たにスタートした JMC 海事振興セミナーは、これまでに計 8 回の開催を数え、2024 年度の最初に当たる第 9 回は、「国際海運におけるチョークポイントの動向と海上コンテナ輸送への影響」をテーマに開催いたします。

改めて申し上げるまでもなく、パナマ運河とスエズ運河は世界の海上物流における要衝で、代表的なチョークポイントですが、最近では、両運河が同時にその通航に支障を来たすという、かつてない事態に直面しています。パナマ運河は、降水量の少なさによる水位制限で通航制限がかかり、一方、スエズ運河は、中東情勢の悪化により喜望峰経由に迂回を余儀なくされている状況です。

この気候変動と中東情勢に起因した事態により、食品、飲料などの輸送や原料・部品の調達に遅れや不足が生じ、迂回に伴う追加費用の発生によりコンテナ運賃が上昇し、さらに航空輸送への振り替えに伴い市況が変動するなど、様々な影響が生じています。また、残念ながら、このような国際海運における通航トラブルが当面解消される目処は立っておらず、長期化が見込まれています。

グローバルサプライチェーンを支える国際海上輸送は、2020 年から約 3 年間にわたり、COVID-19 のパンデミックにより、過去に例を見ない困難な状況に見舞われましたが、今般また新たな困難に直面したという状況です。

安定的かつ効率的なグローバルサプライチェーンの存在を前提として経済・社会が成り立っている我が国にとっては、経済安全保障の観点からも、

グローバルサプライチェーンの早期安定化と今後の強靭化は喫緊の課題です。

当センターでは、昨年 5 月の第 6 回セミナーにおいて「グローバルサプライチェーンの強靭化に向けた国際海運・物流の課題と将来展望」をテーマとし、また、同年 12 月には「サプライチェーン最適化に向けた荷主と船社の協調関係の深化」をテーマとするなど、「グローバルサプライチェーン」について継続的に取り上げてきました。　今回は、グローバルサプライチェーンの要衝であるチョークポイントの動向と海上コンテナ輸送への影響について、最新の情報・知見の共有と意見交換を行いたいと思います。

まず最初に、当センターの後藤研究員から、続いて日本郵船㈱調査グループグループ長代理の原様から講演をしていただきます。
その後、当センターの客員研究員で拓殖大学商学部教授の松田先生がモデレーターとなり、講演者を交えて鼎談を行っていただきます。
最後に、会場又はオンラインでご参加いただいた皆様からの質問をお受けする予定です。今回は、あらかじめ参加者から多くの質問をいただいておりますので、それも鼎談の中で適宜取り上げてお答えする予定です。

本日のセミナーが、ご参加いただきました多くの皆様にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。
では、講演者及びモデレーターの皆様、どうぞよろしくお願いいたします。